

運よく、折りよく、学校の補導部のラトレーさんが歩いている。

僕は喜び、勇んで、「ラトレーさん、ちょっと、たかりです。」と言った。

しかし、ラトレーさんは不思議そうな顔をして、「たかり？なんですか？」で通じない。

そこで、僕は、「早く来てください。」と言う。

僕が真面目な顔しているので、ラトレーさんも異常に気がつく。

僕の自転車の後を、自転車で引っぱられる様に、ラトレーさんは、かけ足で大きな太ったお尻をプリプリさせながら大柄の体を重そうに動かす。

男の前まで来て、僕はそこで立ち止まった。その男と僕はにらみ合いになる。

もうさっきの中学二年はたかられた後で、おとなしく電車道の方を歩いている。

ラトレーさんが追いつき、そこで僕は「ドロボウです。」と大声で言った。その男、びっくり。